

# 「ふくまる栽培」に適した全量基肥肥料の開発

農業総合センター農業研究所

早生・新品種「ふくまる」は今後 1,000ha 以上の作付けが見込まれており、普及拡大に向けて、全量基肥肥料を使った施肥体系の確立が急務となっています。そこで「ふくまる」の生産目標（収量 600kg/10a 以上、千粒重 23.5g 以上、検査等級 1 等）を安定的に達成できる、「ふくまる」栽培に適した全量基肥肥料を開発しました。開発した肥料は「ふくまる専用どっさり 24」という商品名で販売が開始されています。

## ふくまる専用肥料の特徴について

ふくまる専用肥料は窒素成分が 24% と高く、施肥量の多い「ふくまる」でも少ない散布量で済みます（表 1）。

また、この肥料は、幼穂形成期以降の窒素供給が多くなるように緩効性成分を配合し、この期間の窒素吸収量を増加させます（図 1）。

## 既存一発肥料と比較した収量・品質

専用肥料は概ね 600kg/10a 以上の収量を確保でき、既存一発肥料と同等の収量が得られます。また、専用肥料は幼穂形成期以降に窒素吸収量を増加させ、既存一発肥料（一発らくしゅう君）に比べ、千粒重が重くなります（図 2）。

表 1 ふくまる専用肥料の緩効性成分

肥料名	緩効性成分(窒素成分比率)	N-P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> -K <sub>2</sub> O
ふくまる専用肥料	グットIB(8%), MコートL70(42%), MコートS80(30%)	24-12-12
既存一発肥料	セラコートR50(20%), セラコートR70(20%)	18-12-12

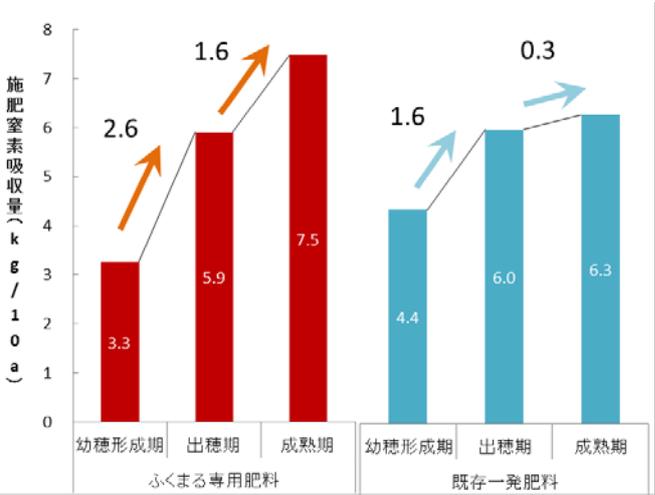


図 1 ふくまる専用肥料と既存一発肥料（一発らくしゅう君）の時期別施肥窒素吸収量の違い  
※H25～26 3カ所平均  
※グラフ矢印上の数値は各生育期間の施肥窒素吸収量の増加量 (kg/10a) を示す。

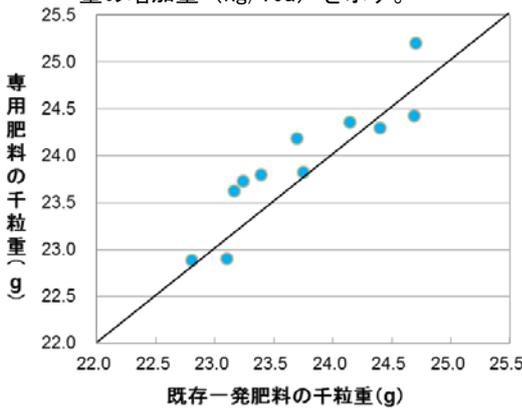
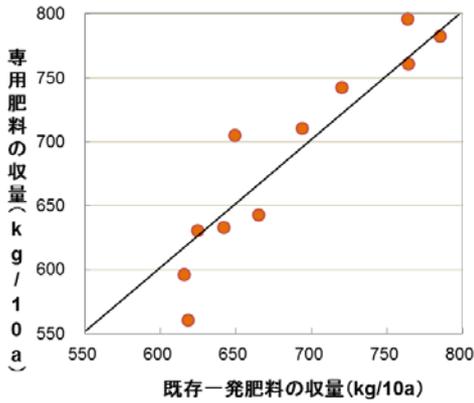


図 2 ふくまる専用肥料と既存一発肥料の収量・千粒重の違い  
※H25～26 現地試験圃場を含む試験結果

## 活用上の留意点

- 1) 専用肥料は生育後半に窒素供給量が多いので、地力の高いほ場では適応が難しい場合があります。その時は、既存の一発肥料を検討してください。
- 2) 専用肥料は既存一発肥料に比べ、玄米タンパク質含量がやや高くなる傾向がありますが、食味の評価には差がありません。